

松川浦における幼稚魚生息状況

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—資源管理—マコガレイ、イシガレイ、アイナメ、メバル

2 担当者

岩崎 高資

3 要旨

松川浦に出現する幼稚魚の種類・分布量の変動をモニタリングする。このうち、水産上有用なイシガレイ、マコガレイ、シロメバル、アイナメの稚魚の出現状況から、2013年における発生水準を把握し、今後の資源動向を予測し、漁業再開に向けて資源の適切な利用方法を検討・提言するための基礎資料とする。

- (1) 2013年4月～12月にかけて松川浦の6調査定点(図1)において、幅2m・高さ1.5m・袋網目合2mmのビームトロール5分曳による採集調査を実施し、1曳網あたりの採集個体数を求め、過去の調査結果と比較した。
- (2) 2013年6月～10月の当歳魚採集個体数は、イシガレイ5個体、アイナメ11個体、マコガレイ30個体、シロメバル46個体であった。2013年級の採集密度は、イシガレイで発生が悪かった2009～2010年級並であり、発生水準は低水準と考えられた。マコガレイでは発生が良かった2010年級を下回ったが、発生が悪い2007,2009年級を上回ったことから中水準と考えられた。シロメバルでは過去6年級で採集密度が最も高かったため、高水準と考えられた。アイナメの採集密度は安定して推移しており中水準と考えられた(図2)。
- (3) 2013年4月～12月の調査では28種534個体が採集された。採集個体数が最も多かったのはスジハゼ、次いでイシカワシラウオ、アサヒアナハゼであった。出現魚種組成を過去の結果と比較すると、種数に大きな変化は見られず、シロメバル・アイナメ・ハゼ類・ハタテヌメリ等の密度が高い傾向は同じであったが、震災前に密度の高かったタケノコメバル・マゴチ等の密度はいずれも低かった。また、2012年に続き、震災前の調査で採集されなかったカタクチイワシが採集された。

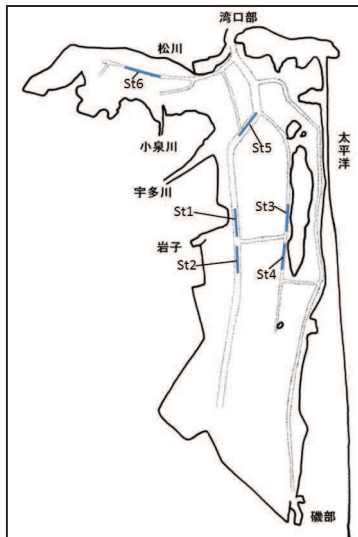


図1 調査定点

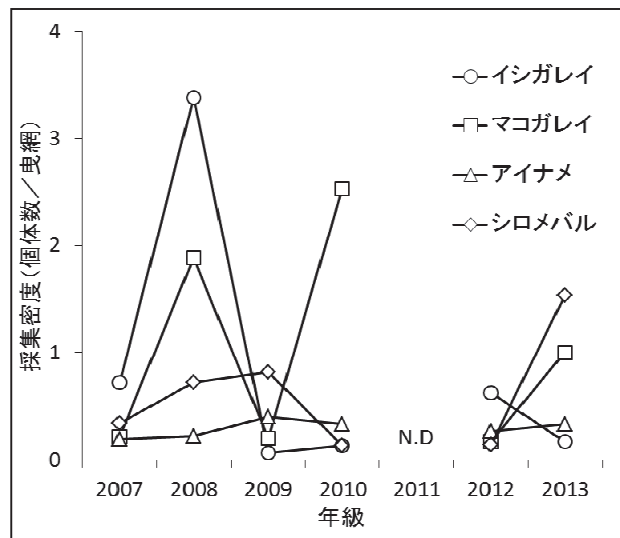


図2 当歳魚採集密度の推移

4 成果を得た課題名

- 1 研究期間:
- 2 研究課題名:松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- 3 参考となる成果の区分:指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 福島県水産試験場事業概要報告書